

特別企画

地域を元気にする取り組みを行うクラブ

スポーツクラブ21わかさの ＜兵庫県相生市＞

地域活性化に寄与することを目的にした公益的な事業を実施することは、地域におけるクラブの存在意義や価値を高め、クラブの自立・自律に向けた活動を促進することにつながる可能性があります。

そこで今回は、地域を元気にする取り組みを行うクラブを紹介します。

1 クラブ概要

設立背景

スポーツを通じて三世代間で交流をし、地域密着型のスポーツクラブができないかという観点からクラブ創設に動き出しました。クラブ活動を通じて、子どもたちにルールを守ることの大切さや社会のルールやマナーを体得させることを目的にしています。

クラブの理念

- ・他の機関・団体などが開催する大会等への参加
- ・会員相互の親睦を図るための交流行事の開催
- ・地域住民のスポーツ活動や地域づくりに資するボランティア活動の実施

現在までの経緯

発足当時は多種目のスポーツ、元旦登山（宝台山）、料理教室、ロボット教室等を実施していましたが、参加人数の減少によりグラウンドゴルフ、ゲートボール、ソフトバレー、野球に絞られました。

現在の活動状況

- ・グラウンドゴルフ、ゲートボールの月例大会
- ・ソフトバレー、野球
- ・どろんこフェスティバル（7月海の日の前日に開催）

2

「親子そろって泥まみれ」をテーマに地域活性化

地域の特性を生かした事業ができないか検討しているときに、他の市町村で泥んこバレー大会を運営していることを知り、当クラブに持ち帰り、休耕田を活用し多種目にわたる「どろんこフェスティバル」を開催することにしました。

「親子そろって泥まみれ」をテーマに地域の活性化・会員相互の親睦を図ることを目的にしています。どろんこ遊びを通じて、子どもたちが自然の素晴らしさを体験し、地域の方々と触れ合う機会を生み出すことで、子どもから大人までが泥んこになりながら競技に参加しており、観ていても楽しいイベントになっています。

筆者である山本の役割をご紹介します。地元企業から協賛を得るため各企業を回るだけでなく、どろんこ運営委員会を開催し大会に向けてのスケジュール調整を行うとともに、資料・大会プログラムの作成、相生高校ボランティア生徒への競技運営上の役割説明など多岐な役割を担っています。また、大会に備えて草刈りや石拾いをやり、当日は審査委員として関わっています。

3

休耕田を活用し「泥んこフラッグス」等を実施

「どろんこフェスティバル」を開催するにあたって、地域の特性を生かすため、休耕田を活用することにしました。大会半年前に、耕作をしていない地域の人にお願ひし、同時に水利責任者にお願ひして水の確保をお願いしています。相生市の行事と競合しないように日程調整し、競技種目については5種目程度とし、朝9時から午後1時くらいまでに大会を終えるよう計画しました。メインとして、泥んこフラッグス、泥そりレース、1本橋渡り、障害物競争、しっぽとり鬼ごっこを企画しました。また選手が泥まみれになるため特設シャワーを設置しました。



大玉転がし



泥んこフラッグス

地元の幼稚園、小学校、中学校、高校、企業と連携

フェスティバルの認知度がなかったため、市内の幼稚園、小学校、中学校、高校にポスターと参加申込書を配布し、行政や市内の主な企業にポスターの掲示を依頼しました。結果として他府県市町村からも多数の人が参加してくれました。幼稚園、小学校、中学校については、普段から学校行事の美化作業等の行事に参加したり、幼稚園、小学校の評議員になったりすることで学校と連携しています。高校については、学校の方針としてボランティア活動を推進していることから、5年くらい前から協力してもらっています。

大会運営にあたりスタッフの確保は不可欠で、幼稚園の先生、小学校の先生・PTA、相生市交通安全協会若狭野支部の方、相生高校の生徒、地域有志の方々からの協力を得て、現在是一个の地域の行事として支えてもらっています。スタッフの役割は、選手召集、選手誘導、競技進行、受付、審査員、カメラマン、救護、シャワー係、見回り、司会、安全対策としての交通整理などで、今大会は56名(各回50名～60名)がスタッフとして参加しました。

プログラムの作成において、特に泥んこフラッグスの組み合わせに苦労しました。同種目は3～4人で数十メートル先の旗を取り合う勝ち上がり戦。低学年、高学年、中学生以上の3クラスに分かれて実施しますが、男女差を考慮したり、少しでも学年の低い子どもでも勝ち上がれるよう組み合わせを作成するのが大変でした。



事前の最終打合せ

地元企業から協賛金募り運営が軌道 今年で16回目的人气イベントに

運営基金ですが、初年度(平成15年度)はクラブ運営費で賄いましたが、2年目からは企業の方から「協賛金を募ってやればどうか」とのアドバイスをいただき、地元企業に協賛を依頼し大会を運営しています。おかげで第16回目の開催を今年度迎えることができました。

「どろんこフェスティバル」の関心を高めるため、競技ごとの表彰(優勝者、2位、3位)だけでなく、特別賞(どろんこ大将、ユーモア賞、審査員特別賞、アベック賞)も設けています。しっぽとり鬼ごっこについては、大人がしっぽを着け、子どもがしっぽを取って賞品と引き換える方式を採用しています。ただ、特別賞の賞品を決めるにあたって、子どもや大人が喜ぶものを選定するのに苦心しています。

大会を通じて、会員や地域の人、各団体間の親睦や連携が図れることに加え、子どもから大人まで心から喜んでくれる笑顔が素敵で、「どろんこフェスティバル」を開催して良かったと思っています。

次回開催に生かすため大会当日に反省会

大会当日に反省会を開催し、「良かったこと」「悪かったこと」を取りまとめて、次回の開催に向けての委員会で再確認し、より良い大会が開催できるようにしています。また、参加申込書のデータを基にグラフ化することで、市町村別、市内の地区別の参加者数を分析し、次回の大会に向けて取り組むようにしています。

しかし、一般アマチュアカメラマンのマナーの悪さが目立つのが大きな問題点です。イベント関係者以外の人が会場に立ち入り写真撮影したり、運営に支障をきたす行動を取るカメラマンもいます。これをどのように取り締まり、対策を取るのかが悩みの種です。イベントの公式カメラマンや報道陣には腕章の着用をお願いするようにしましたが、毎回のように問題となっています。

4 地域・クラブ・会員等への効果や影響

ボランティア活動の高校生から勇気と感動→役員の励みに

■役員・スタッフの声

- 相生高校の生徒には、活動記録として役割、設定目標、設定目標達成度、行動の積極性、仲間への協力、成長できた点などの感想を個々に提出してもらっています。次回開催に向けての大切な意見でもあり、これにより勇気と感動をもらい受け、役員一同の励みにもなっています。
- 「どろんこフェスティバル」を通じて地域・学校・各団体・企業との連携ができました。
- 地域のイベントとして定着できました。
- 当クラブの取り組みを参考にし、他の市町村でも「どろんこフェスティバル」を開催してくれています。
- 少しずつイベントの認知度が高まってきました。



しっぽとり鬼ごっこ



泥そりレース

■スタッフとして参加した高校生ボランティアの声

「僕たちが準備したりしているもので、あんなにも子どもたちが楽しそうにしてくれたことに気づき、裏方の仕事の楽しさ、そして大切さにも気付くことができました」(競技進行担当)

「最初は自分の役割をしっかりとこなせるか不安でした。しかし、大人の方がサポートしてくれたおかげでスムーズに競技を進行し運営を行うことができました。また、自らも競技に参加することで、ボランティアの楽しさと地域の温かさを知ることができました。この経験は今後の生活にとって大切なものになると思います。ボランティアを通して自分の人間性を高め、社会・地域に貢献し、多くの人たちと触れ合い、様々な経験を積んでいきたいと思いました」(競技運営担当)

「最初は会場の空気感が分からず戸惑うことも多かったのですが、先生に教えてもらったり、実際に競技に入ると場の空気を楽しんで放送することができました。レースに対する実況だったり、その場ですぐに言わないといけないことになる焦って噛んでしまったり、日本語が変になってしまったのが悔しかったです。また、私が他のボランティアの高校生に無茶振りしたにもかかわらず、それに応えてくれて、会場を沸かせたことが印象深かったです。今回、大変盛り上がった「どろんこフェスティバル」に微力ながら力添えできたのが嬉しかったです」(場内放送担当)



場内放送



高校生ボランティア



選手宣誓



1本橋渡り競走

5

「クラブ役員の高齢化」「若手への継承」が今後の課題

クラブ役員の高齢化が進み、若い人にいかに引継ぎをしていくかが課題です。今後、地域に愛される活動を続け、今まで以上に積極的に地域行事に参加し親睦と連携を図っていきたいと考えております。また、子どもたちには、より一層スポーツに関心を持ってもらいたいです。

(スポーツクラブ21わかさの 顧問 山本広和)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成14年3月31日

所在地 兵庫県相生市若狭野町八洞185

運営 会員数52名(平成31年4月1日現在)、予算規模305万円(平成30年度)

有給職員 0名

特徴 若狭野小学校区は相生市の西部に位置し、国道2号線とJR山陽本線を挟んで東西に広がる田園に囲まれた緑豊かな農村地帯です。かけがえのない自然と地域の方々の暖かい思いやりが常に次代を担う子どもたちに向けられています。三世代交流を図りながら体力を保持・増進するとともに、相互の親睦を図り、地域の社会の連携と明るく豊かな生活の実現に資することを目的とし、学校・地域行事に積極的に参加しています。

連絡先 TEL 090-1444-4578(山本広和)
E-Mail hirokazu.yamamoto@leto.eonet.ne.jp (山本広和)